

「J」ナース通信

2018年9月
第5号



看護研究相談・支援のチームリーダーとして

5年前の地元ナース養成事業が開始してから、看護実践研究センターの佐藤先生や看護学科の先生方の協力を受けながら、小規模病院等の看護研究相談・支援を担当してきました。私自身、地域看護を専門としているため、病院の看護職の方の看護研究の指導に少しだけかかわった経験がありましたが、複数の病院の方の指導に関わるのは初めての機会でした。ですから、私がかかわった方の中には、「何を言っているんだろう」、「指導といっても何もわかっていないのではないか」という思いを持った方も多くいるのではないのでしょうか。

しかし、この5年間に、現場の看護研究の指導やブラッシュアップ・フォローアップ研修、Jナースカフェ等で看護研究に関わらせていただき、私自身が多くのそして深い学びをさせていただいていることを痛感しています。その背景には、現場の看護職の方の「この現状を何とかしたい」「よりよい看護を提供したい」という強い思いに触れたからです。もちろん、これらの強い思いが、即看護研究の目的になることは難しいのですが、この思いをいかに持ち続けられるかが、看護研究として最後までやり遂げるモチベーションにつながっていくことと感じています。相談に持ち込まれる多くの課題を見た時、いつも研究動機の強い思いを維持できるように関わっています。課題に対して「なぜそう思ったのか」「そのことは看護の中でどのような位置を占めるか」「何が分かっている、何がわからず、どのようにしようとしているのか」などなど、できるだけ相談者と時間をかけて検討してから、支援するように心がけています。「相談・支援」は、私の研究ではないので、方向性が決められるよう傍から支えることが重要だと思います。私が支援に徹してきた理由は、現場で自ら研究に取り組むことの出来る、看護研究の基礎を持っている人を増やしたいとの思いでした。

そして支援を始めて、5年がたとうとしています。長くかかわってきた病院の看護職の研究の認識が、時代の流れもあるかもしれませんが、変わってきたような気がします。それは看護研究のタイトルからも見る事ができます。「看護職が考えた看護の実践のための看護研究」ではなく、「患者さんを中心とした看護研究」にシフトしてきました。私たち教員から見れば、臨床現場は看護研究の素材が詰まった宝の山です。ぜひ、看護の質を高めるために、看護研究を実践していただきたいと思います。そのことが、「大変な看護」から「魅力的な看護」にシフトさせ、日々の業務に活かせるのではないのでしょうか。今後に期待します。

看護研究相談・支援担当 後藤 順子

【看護研究相談・支援】

小規模病院等の看護職の研究能力が向上し、看護実践への波及効果を目指し、県内の小規模病院等に勤務する看護職の方を対象に、下記のような相談・支援を行います。

1. 看護研究方法の研修や研究の実践・発表に向けた相談や支援
2. 大学職員と小規模病院等の看護職の共同研究(課題対応研究等)の企画・実践や発表等に向けた支援
3. 小規模病院等の看護職の看護実践能力向上に向けた研究や研修会・後援等の相談・支援

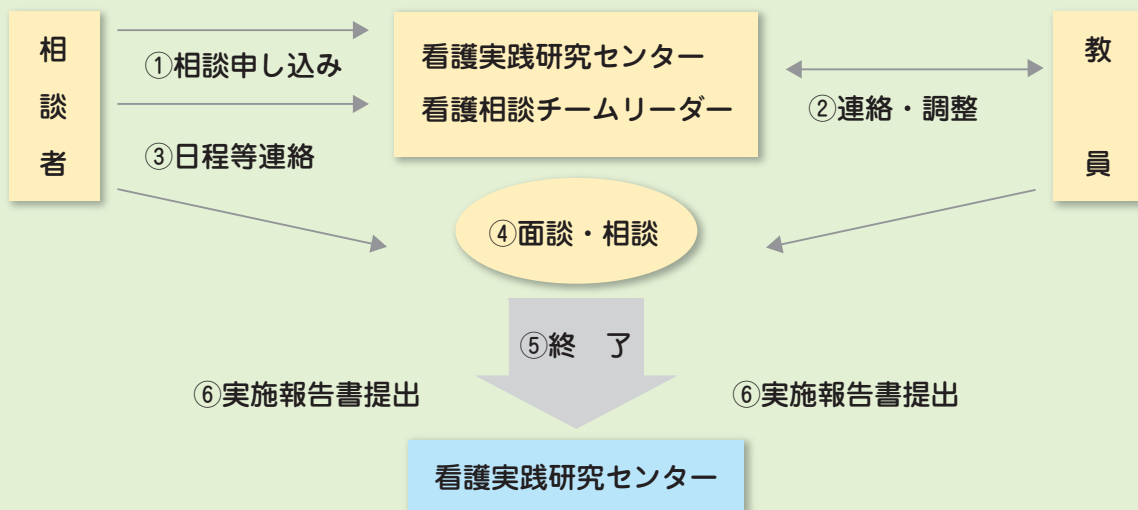


これまでの看護研究相談・支援の取り組みについて

●看護研究相談・支援の申し込みから相談・支援実施までの流れについて

対象者：県内の小規模病院、診療所、高齢者施設等に勤務する看護職者

申し込み方法：所定の用紙に、研究のテーマや概要、相談内容等を記載し、Faxまたはメールにて申し込む。（所定の用紙は、ホームページからダウンロードが可能）



●平成27～29年度 看護研究相談・支援累計件数

施設形態	診療所	施設	20～99床	100～149床	150～200床
所属施設数	4	14	7	7	10
研究件数	4	26	11	17	33
研修会数	0	0	3	0	8

*同一施設から複数の研究依頼がある場合、研究件数は複数としている。

●研究の成果発表数

発表の場	件数
院内発表	38件
山形県内での発表	27件
全国規模の学会発表	5件
老健地区発表	14件

(平成30年1月集計)

●主な研究内容

内容	件数
看護業務改善	11件
人工透析	7件
口腔ケア	7件
訪問看護・地域包括ケア	6件
認知症	5件
退院指導	4件
緩和ケア	3件
褥瘡	3件
高齢者	3件
精神	2件
その他	15件

(平成27～29年度)

(平成30年1月現在)



地元で活躍する看護師



「人と関わることは哲学 地元で伝承」

医療法人敬愛会 尾花沢病院 看護部長 田中 富美子

新聞に見た文章が私の座右の銘です。「誇りをもって人生を懸けられる仕事だ」という看護師の投稿でした。看護師になると決意したのは東京オリンピック開催時グランドに五色の輪を作り航空写真撮影という企画の最中、同級生との雑談の時です。一番人気の職業でした。山形の高校を卒業後都立看護学校に入学し、関東で家庭を持ちました。後々知りますが、父は家業を継ぐ立場の私に好きな事を許した時点で、妹たちも何れ…とその段階で家業は自分の代で終わりを決めたそうです。その父が入院した時、母と妹たちは交替で付き添いましたが、看護師の私は帰省できませんでした。日帰りで見舞った時に看護ケアをする私を手で制し、「お前はここの看護師じゃないから…」と言われたことが心残りでした。今、母の介護をしています。「世話出来て幸せだべ」という母に「さすが」と思います。看護師になることを許してくれた父の世話ができなかった想いを母は気づいていたのでしょうか。何もできなかった昔の私を気遣ってくれます。

私が勤務する尾花沢病院は、3階建てのシンプルな美しい病院です。勤めて間もなく看護部長の任を受け、大事にしてきた看護観を存分に発揮しています。自分の働く場所に誇りが持てるという幸せの中で、小規模病院看護師の役割をいつでも傍らに居る存在と認識しています。「赤ひげ診療譚」という古い映画がありますが、看護師の存在そのものが治療に繋がるあり方が描かれています。教授してくれるのは患者さんであり、日常です。患者さんの人生に寄り添い、共に歩み、悩み、喜び、声なき声を拾います。仕事から育てられています。

看護部長となり、笑顔と信頼を目標にしてきました。相手の目に微笑むことです。当院のスタッフは優秀で、この方針をしっかり身につけてくれました。次のステップは、信頼を得る為のキャリアアップです。小規模病院ではなかなか実現困難な部分の、スタッフの意欲をさらに上げるための地元ナース事業のお話は渡りに舟です。後押しされて勇気をもって漕ぎ出す感覚がありました。小規模病院に焦点を当てたこの事業の

重要性を肌で感じています。

この学びをしっかり伝承していきたいと考えます。人と人との敬意が薄くなってはいないのか？とご時世を感じる事もあります。

ミヒャエル・エンデは『モモ』の中で時間の意味を教えてくださいました。私の自分磨きの旅はこれからも続きます。



平成30年度 人事交流オリエンテーションを開催しました

山形発・地元ナース養成プログラムでは、平成27年度より人事交流を行っています。本事業における人事交流の目的は、小規模病院等の看護師と本学看護学科教員の人事交流を通して、業務の相互理解と教育力の向上を図ることです。



人事交流を実施するにあたり、小規模病院等の看護管理者から、小規模病院の人材充足状況や派遣する看護師が子育て世代であることから、長期間の派遣は困難で3～5日の派遣が限度であるとの検討事項が挙げられました。そこで平成27年度は試行として計画し、病院から大学への人事交流として3日間の日程で、2病院から各1名の計2名が人事交流として参加しました。また、大学からは2名の教員を5日間の日程で小規模病院に派遣し、小規模病院における看護実践を体験しました。人事交流を行う際は、大学と病院間で覚書を取り交わし、業務の遂行に支障の無い様に整えています。

平成28年度以降は、人事交流の内容の充実を図り、また、日数や参加人数が増えるよう複数の日程を計画し、病院側が日程を選択して参加する形にしました。人事交流の内容は、本学の教育理念、教育課程の編成と実施の方針、人材育成の取り組み等、大学教育に関して、また臨地実習に参加し、看護学実習の構造や教員と臨床指導者との連携を理解し、大学の講義や演習に参加し、学生が受講する講義の組み立てを理解するものとししました。また、教員との意見交換を通して、実習の受け入れや、自施設における人材育成の課題や展望を検討することとしています。

平成28年度以降は、人事交流の内容の充実を図り、また、日数や参加人数が増えるよう複数の日程を計画し、病院側が日程を選択して参加する形にしました。人事交流の内容は、本学の教育理念、教育課程の編成と実施の方針、人材育成の取り組み等、大学教育に関して、また臨地実習に参加し、看護学実習の構造や教員と臨床指導者との連携を理解し、大学の講義や演習に参加し、学生が受講する講義の組み立てを理解するものとししました。また、教員との意見交換を通して、実習の受け入れや、自施設における人材育成の課題や展望を検討することとしています。

人事交流は年々、参加人数や実施時間が増え、これまでの4年間で、22名が人事交流を行いました。平成30年度は7病院から10名が2～10日間の参加を予定しています。6月27日には、人事交流オリエンテーションを開催しました。このオリエンテーションは、小規模病院の看護師同士の交流を持つ機会にもなっています。

○新たに協力病院が増えました!

- 町立金山診療所（金山町）
- 寒河江市立病院（寒河江市）
- 矢吹病院（山形市）
- みゆき会病院（上山市）

これまでの、山形市から離れている医療機関等に協力病院になってもらい交流を図ることによって、医療資源が乏しく、公共交通機関が少ない地域の小規模病院等の現状や課題を検討してきました。

今年度は、大学近隣の市町村にある小規模病院等にも協力病院になっていただき、県内の各地域に協力病院があることになりました。今後は県内全域の医療関係者の皆様に、本事業へのご理解が深まり、ご支援が頂けるよう活発に活動を行っていきたくと考えております。



● 編集後記 ●

いよいよ本事業の最終年度に突入しました。この勢いを途絶えさせないよう、進めて行きたいと考えております。昨年度よりも「地元ナース」の認知度は上がってきているように感じています。頑張ります！

編集・発行



山形県立保健医療大学
看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
TEL/FAX 023-686-6614
<http://jimoto-nurse.jp/>
info@jimoto-nurse.jp